

# 「オピオイドクライシスを救う新しい疼痛抑制薬」

萩原 正敏（京都大・院医・形態形成機構）

私は三重県の北端の片田舎の開業医の次男坊で、大した才能もないし都会は苦手なので、ブラックジャックのような外科医になって、アフリカかアマゾンの奥地にでも行こうかと思っていました。ところが医学部入学後に、どんな名医でも治せない病気の多さに気づき、難病を治す新薬を作りたいと思い立ちました。学部学生時代に闇雲に始めた研究が、運良く創薬に結びついたことを端緒に、アカデミアでの研究を続けるとともに、その成果を元に創薬ベンチャーを3社起業しました。自らが創製した薬を武器に、これまでの医療では治せぬ難病に苦しむ人々を救うことが、人生の夢です。



## ご略歴

- 昭和 59 年 3 月 三重大学医学部卒業
- 昭和 63 年 4 月 名古屋大学医学部薬理学講座助手
- 平成 3 年 7 月 Salk Institute (米・サンディエゴ) Postdoctoral Fellow
- 平成 5 年 10 月 名古屋大学医学部解剖学第三講座講師
- 平成 7 年 7 月 同助教授
- 平成 9 年 1 月 東京医科歯科大学難治疾患研究所教授
- 平成 22 年 7 月 京都大学大学院医学研究科形態形成機構学分野教授（現任）
- 平成 27 年 4 月 京都大学医学領域産学連携推進機構（KUMBL）機構長（現任）